東北大学医学部 後援会会報

No.15
2015.7

発行：東北大学医学部後援会
編集委員会　平成 27 年 7 月

新入生を迎えての挨拶　～保護者・学生の皆様へ～

東北大学医学部長・医学系研究科長
下瀬川　徹

新入生ならびにご父兄の皆様、東北大学医学部にご入学おめでとうございます。

入学式から数ヶ月が過ぎて、仙台の学生生活に大分慣れたころでしょうか。

4 月 3 日の入学記念祝賀会でも述べましたように、東北大学医学部は今年、開設百周年を迎えます。1915 年（大正 4 年）7 月 14 日の文部省令第 10 号によって東北帝国大学に医科大学が設けられ、医学科が開設されました。初代学長は外科の山形仲藝先生でした。本医学部は、このように長い歴史と伝統を持つわが国を代表する医学研究・教育施設です。

東北大学は、1907 年（明治 40 年）の設立当初より、「研究第一主義」、「門戸開放」、「実学尊重」を基本理念に掲げ、リベラルな雰囲気のなかにも、研究に邁進し、社会に役立つ学問を追求する気風を培ってきました。

医学部の精神も本学の基本理念に基づいており、先人達の研鑽によって、これまで数多くの輝かしい業績をあげてきました。

大学を取り巻く環境は近頃大きく変化しつつあり、平成 25 年度に開始された国立大学改革プランによれば、国立大学のミッションが再定義され、それぞれの役割に基づいた機能強化支援が行われます。これは、平成 28 年度から始まる 6 年間の第 3 期中期目標期間への準備と捉えることができます。東北大学は、医学分野のミッションの再定義において、「最先端の研究・開発機能の強化」グループの 12 大学の一つに分類されています。

また、東北大学は、平成 26 年度に世界ランキングトップ 100 を目指す大学を支援する「スーパーグローバル大学創成支援」のトップ型 13 校の一つに採択されています。

このように、東北大学医学部はグローバルな視点で、世界で活躍する研究者や医療人の育成、世界トップランクの研究教育拠点を目指すことが求められています。新入生には、伝統ある東北大学医学部学生であることに誇りを持ちつつ、社会的な責任感を十分に自覚し、将来にむけて高い理想をもって学生生活を送って欲しいと願っています。

記念すべき医学部開設 100 周年の今年 7 月、私どもの長年の夢でありました「星陵オーデイトリアム」が完成します。

星陵会館に併設された 280 席の新講堂は、艮陵会館記念ホールとともに新しい学術活動の場として活用されるでしょう。

医学研究科・医学部は、今年 9 月 5 日（土）に「星陵オーデイトリアム」の落成式とともに、医学部開設 100 周年の記念式典・祝賀会を開催することを決め、現在準備を進めております。

この 100 周年を記念しまして、医学部環境整備（緑化対策、立体駐車場建設）を事業として興したいと考えております。

また、医学部環境整備事業にもご理解をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東北大学医学部生の皆様を後援会は応援しています。

東北大学医学部後援会会長
東北大学加齢医学研究所基礎加齢研究分野
堀内　久徳

東北大学医学部後援会は、東北大学医学部医学科・保健学科の学生の皆様がよりよい学生生活を送れるように支援することを目的として設立されました。後援会に対する支援の要望が少しずつ増えておりますが、だんだんとお役に立てる存在になってきていることに大変うれしく存じております。この医学部後援会は、ご父兄の皆様の継続的なご

支援によって成り立っており、ご父兄の皆様にはどうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。また、本後援会は、東北大学病院の業務支援を行っている財団である辛酉会（しんゆうかい）からもご支援をいただいており、まことにありがたく深謝申し上げます。

さて、東北大学医学部後援会の学生支援の主なものをご説明申し上げます。まず、4月に新入生入学記念祝賀会を主催しております。多くの新入生及びご父兄の皆様や教員の参加を得て、入学時のすばらしい交流の場を提供させていただいており、たいへん嬉しく存じております。また、図書館医学分館には、学生用のいろいろな教科書をそろえる援助も行っており、学生の皆様にはよく利用していただいております。そして、医学科及び保健学科の学生の皆様の卒業時に開く謝恩会への援助も行っています。また、年に2回、この後援会会報を発行して、ご父兄の皆様がたに東北大学医学部の現況をお知らせしております。このような学生生活の節目節目の支援の他に、学業がより円滑に行えるようになかなか予算が付きにくい設備などへも、役員会の議を経て支援を行っております。

私は、東北大学医学部学生の中には、研究者を志している学生が大変多いと驚いています。私の研究室にも結構多くの学生が出入りしており、夜の9時頃が最も活気があるような状態となっております。3年生の基礎医学修練（半年弱の間、基礎医学系の研究室に配属。その間授業なし）のあと勉強部屋のようにしている学生や自分の研究プロジェクトをもって研究を進めている学生まで多岐にわたります。今年、卒業した学生の一人は、これまでの研究成果をまとめて、国家試験前に英文論文を投稿しました。国家試験後に査読結果がきて、その後、学部学生が中心になって追加実験を仕上げました。このように研究学生は、大学院生と同レベルの研究を進めています。高校卒業の学力があれば、第一線の研究には十分であり、あとは、本人のモチベーションと努力だと思います。知識や経験は荷物にならず、一旦身につければ一生続くので、今後どのように彼らが成長していくのか楽しみにしています。東北大学医学部では、「世界で競い合うMD研究者育成プログラム」（文部科学省）を行っております。このプログラムは、学生の間から第一線にたつ研究者を育てていこうとするものです。ほとんどの東北大学医学部の研究室は、学生さんがやってきて一緒に研究を楽しみつつ進めてくれることを望んでいると思います。もし、ご子弟が少しでも興味を持たれておられれば、是非、少し背中を押して差し上げて下さい。

「医学部後援会」は何をしている組織ですか？という質問をしばしばお受けします。先日、医学部後援会に急な要望があり、その支援について検討するため、役員会を開催させていただきましたが、その会では、名は体を表すように「東北大学医学部学生後援会」と、名称を変更してはどうかとの意見が出され、まとまりました。また、平たく分かりやすいように「PTAという文字も入れられれば」との意見も出されました。今後、詳細を詰めていきますが、問題がなければ近々に、名は体を表す名称に変更していくかもしれません。その節にはどうぞよろしくお願い申しあげます。

― 研究室（分野）紹介 ―
医学科・環境保健医学分野

医学部医学科
教　授　**赤池　孝章**

環境保健医学は、ヒト－環境系の視点から、健康の保持増進と疾病予防を目指す学術領域です。ヒトの健康と環境の関係は極めて多面的であり、疾病について単一の化学物質や環境要因からだけで論ずることは困難です。例えば、金属中毒の原因となる有機水銀は、生物濃縮された海産物から摂取されますが、実際の食品中には、抗酸化物質などの毒性を軽減する成分が含まれており、また、生体には解毒代謝などの様々なストレス応答機構も存在しています。従って、環境因子と疾病の病因論においては、生体の環境ストレス応答を制御する外的及び内的環境の多面的な理解が不可欠です。本分野では、この様な多様な環境因子による生体の環境・酸化ストレス応答の分子基盤の解明に取組んでいます。特に、ケミカルバイオロジーやメタボロームとプロテオームという最先端分析技法を駆使した解析を行い、その研究成果を基盤にして、酸化ストレス応答における生体防御の視点から、様々な疾病の診断法の確立、予防・治療法の開発を目指しています。

外因的、内因的な要因により生体内で過剰に産生される活性酸素は、酸化ストレスをもたらし、感染・炎症、がん、国民病である動脈硬化症や糖尿病などの生活習慣病、アルツハイマー病などの神経変性疾患などの様々な病態に関与しています。一方、近年、活性酸素は、単なる毒性因子ではなく、多彩な生命現象を司る生理的なシグナル分子であることが分かってきました。活性酸素は、生体内のセンサー分子と連関するエフェクター蛋白質による複雑かつ精緻に制御されたシグナル経路を経て、酸化ストレス応答、オートファジー誘導、細胞老化や細胞死の制御など多様な生理機能を発揮します。活性酸素シグナルの制御分子メカニズムの解明は、酸化ストレスが関与する様々な疾患の病態解明に資する重要なテーマと考えられます。最近、私達は、新しい酸化ストレス制御因子として複数のイオウ原子を含む化合物であるポリスルフィドという活性イオウ分子種が生体内で生成されていることを発見しました。ポリスルフィドなどの活性イオウ分子種は、強力な抗酸化活性を有

するだけでなく、ほとんどの蛋白質中にポリスルフィド化システインとして多量に含まれており、これまで知られていない新しい蛋白質機能改変・制御機構に深く関与していることが分かってきました。さらに、大変興味深いことに、ポリスルフィド化システインは、蛋白質の翻訳時に取り込まれることが最近明らかになっています。これは、50年以上前にワトソン、クリックにより提唱され、分子生物学の基本概念（セントラルドグマ）として広く知られているDNAから蛋白質合成に至る遺伝情報伝達メカニズムにおいて、大きなパラダイムシフトをもたらす画期的な発見と考えられます。従って、活性イオウ分子種の生理機能の解明は、酸化ストレスが関与する様々な疾病の全く新しい予防・治療法の開発に役立つことが期待されます。（図 1）

図１　活性イオウ分子種による酸化ストレス制御

一方、私達は、環境因子としての感染症についても研究を推進しており、新興感染症菌ヘリコバクター・シネディの動脈硬化促進作用を明らかにしました。本菌は、感染経路など疫学的性質には不明な点が多く残されており、これを解明することにより、社会問題となっている動脈硬化症の新たな予防・治療の開発に貢献できるものと思っております。

本分野では、研究室門戸開放や基礎医学修練、卒業研究などで医学科や保健学科の学生を積極的に受入れ、医学教育にも力を入れています。（図 2）

図２　当分野での医学部学生への研究指導

最先端の基礎医学研究を経験することにより、基礎医学研究で得られた成果を基盤とした疾病の診断法の確立や予防・治療法など臨床研究への橋渡し（トランスレーション）の重要性を学んでもらいたいと考えています。このような教育活動を通じて、医学の発展を担う優秀な研究者、医師・医療従事者が育ってゆくことを願っています。

保健学科・放射線治療学分野

医学部保健学科放射線技術科学専攻
教　授　**武田　　賢**
助　教　**土橋　　卓**

現在、本邦では、国民の２人に１人が一生の内に癌と診断され、総死亡の約３割を占めると云われており、その死亡率は一貫して上昇を続けています。

今日の癌治療は、益々、集学的治療の度合いを増し、外科的治療及び化学療法と並び、放射線治療の果たす割合が重要になって来ております。高齢癌患者の増加に伴い、今後の癌治療では、身体への負担が少ない放射線治療の役割が更に大きくなることが予想されます。

また、放射線治療は、近年にかけて目覚ましい速度で発展しており、定位放射線治療、強度変調放射線治療や画像誘導放射線治療などに代表される高精度放射線治療では、副作用の軽減と治療成績の向上がみられていることや日本国内における粒子線治療施設の増設も放射線治療の追い風となっています。

然しながら、医学物理士や治療専任の放射線技師が、日本国内ではまだまだ不足しているのが現状です。高度な知識と技術を有し、且つ、患者さんに優しい医学物理士、放射線治療専門技師らの育成と各医療施設への均質な配置が急務とされています。

放射線治療業務を担う医療従事者育成のため、放射線治療学分野では、学部教育は勿論のこと当学の放射線腫瘍学分野及び医学物理士との共同研究を重視しています。
当学では、保健学専攻出身者と理工系学部出身者の医学物理士養成コースを併置しているため、医工連携をはじめとする研究開発が行える可能性があります。
東北大学放射線腫瘍学分野と東北大学病院放射線治療部の協力を得ながら、高精度放射線治療の更なる発展を目指した研究（精度を保ちつつ1回の照射時間を短縮し、且つ、副作用を減じた高線量照射を短期間で行う照射法や照射期間中の臓器や病変の形状変化に適合する適応放射線治療の開発）を行っています。
適応放射線治療の基礎研究の途中経過については、昨年の米国放射線腫瘍学会で報告し、論文にもすることが出来ました。
また、それら高精度放射線治療では、その基礎となる線量計算の更なる高速化・高精度化が重要となっておりますが、その一方で、不均質媒質中の線量分布や最適化計算においては、現行の線量計算アルゴリズムに改善すべき問題も多く残されています。
本研究室では、独自に線量計算アルゴリズムを実装し、高速かつ高精度な線量計算アルゴリズムの開発を目指して研究を行っています。
この研究の途中経過については、昨年、土橋助教が日本放射線腫瘍学会で報告致しました。
これまで、2名の修士課程の学生が当研究室を巣立ち、放射線治療施設での業務を行っており、現在、修士課程2年生が1名（今秋の日本医学物理学会第110回学術大会（JSMP 110）で研究成果発表の予定）と同課程1年生3名の計4名の大学院生が、日々、研究に取り組んでおります。「適切な放射線治療を安全に患者さんに提供する」この目標のために、これからも更なる研究を続け、放射線治療の発展に寄与出来ればと考えております。

東北大学医学部保健学科のこれまでとこれから

東北大学医学部保健学科　検査技術科学専攻
助　教　**髙木　清司**

私は、保健学科検査技術科学専攻に一期生として入学し、学部と大学院を経て現在は教員としてお世話になっています。そこで、私が見てきた保健学科の歩みを紹介しつつ、向かうべき保健学科の将来について考えてみたいと思います。
検査技術科学専攻では、生体情報を正確に収集・解析する方法を学習しますが、基盤となる学問領域は、病理組織細胞学、臨床血液学、臨床化学など多岐に渡ります。講義は、私にとってはいささか難解でしたが、今思えばそれは

内容が国家試験のみを想定したものではなく、まだ、教科書に載っていない最先端の技術や研究の話題などが随所に取り入れられていたからでしょう。学内実習も講義とリンクする形で行われ、理論と実践の一体化が感じられました。一方、平成19年に保健学科A棟が、平成20年にはB棟がそれぞれ改修され、設備が充実したことは大きな前進であったといえます。拡充された実習室はもちろん、講義室があるA棟の各階に設けられた自習スペースには、多くの学生がお世話になったことと思います。
また、保健学領域において優れた技能と知識を有する研究者及び教育者を育成する目的で、平成20年に博士前期課程が、22年には博士後期課程が設置されました。検査技術科学コースへは、学内外から毎年多くの学生が入学し、日夜研究に励んでいます。前期課程在籍中に英文雑誌へ投稿する強者もいるようです。ここに、学部学生が卒業研究として研究室に加わるため、研究がますます活気を帯びています。
このように、10年余りで保健学科は、学部のカリキュラムの充実や大学院の設置により大きく成長しました。では我々は次に何を目指すべきでしょうか。多くの保健学科の学生は進路を模索するにあたり、臨床の現場か研究のどち

らかを選ぶことになります。しかしながら、これらは相反するものでは決してありません。医療従事者として経験を積んでいくなかで、研究に興味を持つこともきっとあるかと思います。門戸開放という東北大学の理念に基づき、リサーチマインドを持った社会人の受け入れ体制をさらに強化していくことが今後の保健学科に求められることではないでしょうか。このような取り組みによって、医療専門職と研究の両方において十分な経験と技能を有する人材を育成し、保健学科の将来を担う研究・教育者を輩出することが強く望まれます。

平成 26 年度医学科 3 年次基礎医学修練発表会について

医学科運営委員会委員長　笹野　公伸
医学科 3 年次基礎医学修練発表会実行委員会委員長　櫻井　一貴

平成 26 年度の基礎医学修練発表会は、平成 27 年 3 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間行われました。

発表者は、口演が 74 人、ポスターが 13 人でした。約 5 ヶ月に及んだ基礎医学修練での研究成果を発表し、討論しました。活発な議論も数多くなされ、大変盛況な発表会となりました。

今年度も、奨学金で海外留学を行った学生による英語での発表・質疑応答が行われました。
海外留学をした学生は、日本と異なる研究環境に戸惑いながらも大変貴重な体験をしてきたようでした。

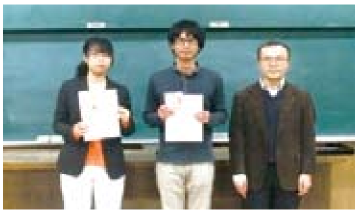
発表会を通して、留学しなかった学生もその体験を共有でき、海外留学に興味が持てたことと思います。

また、抄録募集・作成、日程の調整及びポスター作成など学会同様の運営全てを学生によって組織された発表会実行委員会が行いました。基礎医学修練は研究を行うと同時に、会の運営を学ぶ機会でもあり、将来必要とされるリーダーシップやマネジメント能力を身に付ける大変よい経験となりました。

発表に対しては、3 年次学生と教員による評価がなされ、優れた発表には表彰状と副賞としての図書券等が授与されました。

今年度の基礎医学修練も多くの方々のご支援・ご協力のおかげで無事終えることができました。

特に、医学部後援会のご支援により運営費を確保することができたことで、この会を質の高い有意義な会にすることができたと感じております。



関係者一同、多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

医学部医学科卒業謝恩会の報告

平成 26 年度卒業生謝恩会代表
大谷　将之

平成 27 年 3 月 25 日（水）に、平成 26 年度医学部医学科卒業生は、教授をはじめ大学の先生や職員、家族、友人、その他大勢の皆様の祝福の中、晴れて東北大学を卒業致しました。卒業式の夜に、医学部後援会様のご支援のもと、江陽グランドホテルにおいて、お世話になりました方々への感謝の気持ちを込めて、卒業謝恩会を開催させて頂きましたので報告致します。

当日は、60 名を超える先生方に御出席を頂き、大いに賑わいました。お忙しい中、御出席頂きました皆様に心から御礼申し上げます。

謝恩会の冒頭では、大内　憲明医学部長から、「数年して母校である東北大学に戻ってきてください」とのメッセージを賜りました。全国各地へと羽ばたく卒業生の心の琴線に響き、目前に控えた初期研修に対して、医師として活躍できる期待が高まった卒業生も多かったと思います。

次いで、下瀬川　徹病院長から乾杯の御挨拶を賜り、謝恩会が始まりました。謝恩会の中ほどでは、星陵アンサンブルに所属する卒業生による演奏が披露されました。その後、東北大学学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を参加者全員が一緒になって斉唱し、会場は大いに盛り上がりました。さらに、大内医学部長から素敵なサプライズがあり、本学の卒業生である小田　和正さん作曲、校友歌「緑の丘」を映像とともに流してくださいました。学生生活が走馬灯のように頭の中を流れ、感涙した卒業生も多くいました。

最後は、里見　進総長から、御挨拶を賜り、一本締めで閉会となりました。終始、先生と卒業生の垣根を越えて、学生生活の思い出話や臨床研修について語り合う姿が見受けられ、先生と共有ができ、時間の大切さを改めて実感しました。

4 月からは、初期研修医として新たなスタートを切りますが、東北大学で培った知識、技術、精神すべてを余すことなく発揮し、臨床及び研究の場で活躍できる医師になれるよう、日々精進して参ります。また、私たち卒業生は、数年後に仙台の地で再会し、嘗て切磋琢磨した仲間と共に日本の医療をリードできるよう努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今回の謝恩会をはじめ、6 年間の学生生活を厚くご支援いただきまいた東北大学医学部後援会様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

医学部保健学科謝恩会の報告

平成 26 年度医学部保健学科謝恩会
幹事代表　右京　菜摘

去る平成 27 年 3 月 25 日（水）に、東北大学学位授与式が仙台市体育館で行われ、その後の夕刻 7 時から平成 26 年度東北大学医学部保健学科謝恩会を、ホテルメトロポリタン仙台で行いました。

当日は、4 年間でお世話になった先生方や実習をさせていただいた病院や施設の方々など、大勢の皆様にご出席いただいたことに心より感謝申し上げます。また、この会を開催するにあたり、東北大学医学部後援会様をはじめとする様々な方々にご援助をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

最初は、副医学部長の石橋　忠司先生、保健学科長の塩飽　仁先生からご祝辞と乾杯の音頭を賜り、謝恩会がはじまりました。保健学科三専攻の学生は、講義や実習、卒業研究などさまざまな場面でお世話になった先生方や施設の方々に感謝の気持ちを伝えたり、思い出話に花を咲かせたりし、改めて感謝の気持ちを抱いておりました。また、ビンゴ大会も行われ、会場は大変盛り上がり、楽しんでいただけたように見受けられました。そして、最後にこれまで

お世話になった先生方に花束贈呈を行い、これまでの感謝の気持ちを伝えることができたと思います。

このような素晴らしい会を開催できたことをとてもうれしく思います。今後は、それぞれの道に進みますが、東北大学で学んだことを忘れず、また感謝の気持ちを胸に、日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、快くご協力いただきました医学部後援会様に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

平成27年度医学部新入生オリエンテーションを開催しました

医学部医学科長 石井　直人
医学部保健学科長 清水　律子

花曇りの中、4月6日（月）に医学部新入生オリエンテーションを実施いたしました。

○ 医学科では、下瀬川医学部長、八重樫病院長の挨拶のあと、教育課程や学生生活等についての説明を行い、昼食時間には、アドバイザー教授と食事を摂りながら懇談しました。

新入生を4～5名の小グループに分け、アドバイザー教授の研究室で昼食を摂りながら、和やかな雰囲気で懇談することができました。

午後からは、小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血、医学教育推進センター石井誠一准教授による「世界で競い合うMD研究者育成プログラム」の説明及び学生歌の歌唱指導を実施しました。最後に、在校生によるサークル紹介を行い、教員・在校生全体で新入生を迎え入れることができました。

○ 保健学科では、下瀬川医学部長及び清水学科長のあいさつの後、午前中は、授業の取り方等学科全体のオリエンテーションに引き続き、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻の3専攻に分かれて、専攻オリエンテーションを行いました。

その後は、チューター教員と新入生との昼食懇談会を実施しました。4年間の大学生活の中で、勉学のみならず様々な面で相談に乗ってくれるのがチューター教員です。桜の花もほころぶ暖かさの中、初めは緊張した面持ちの新入生は、昼食をはさんで先生方や同級生と親しく話すことができ、順調な大学生活が踏み出せたようです。午後は、情報セキュリティ講習会や感染等の抗原抗体検査のための採血と盛りだくさんの一日でしたが、無事オリエンテーションを終了することができました。

例年、医学部後援会から昼食代等の必要経費のご援助をいただき、本当にありがとうございます。

お陰様をもちまして有意義な新入生オリエンテーションを実施することができました。

後援会主催の入学記念祝賀会を開催いたしました

後援会主催の事業の一環として、去る、4月3日（金）の午後1時から、仙台市青葉区の「江陽グランドホテル」において、平成27年4月に医学部（医学科、保健学科）にご入学された新入生とその保護者の皆様を対象とした「入学記念祝賀会」を開催いたしました。

当日は、柔らかな暖かい一日に恵まれ、午前中は、東北大学全体の入学式が行われ、午後に会場を移動し、参加者が約500名で、大盛況の下で実施することができました。

最初に、下瀬川　徹医学部長の挨拶、次いで、堀内 久徳後援会会長からの挨拶の後、御来賓の辛酉会平　則夫理事長から御祝辞をいただきました。

続いて、後援会役員の紹介の後、尾股　健副会長による乾杯の発声があり、祝賀パーティが賑々しく始まりました。

懇談の後は、石井　直人医学科長及び清水　律子保健学科長による学科の紹介と歓迎のスピーチ、そして、医学科教授及び保健学科教授によるキャリアパス等の企画が行われました。

さらに、初対面の新入生同志・保護者・大学関係者・在学生との顔逢わせにより、大好評の下で、楽しい歓談・懇親の会を過ごされ、交流ができたように思われます。

また、ご参加いただきました保護者や新入生などの皆様から、温かな言葉をいただくことができ、好評を得た後援会の事業の一つではないかと思っております。

今後とも、会員の皆様の温かい御支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

医学部後援会・事務室

編集後記

医学部後援会は、会員の皆様、学生及び教職員の方々に支えられ、8年目を迎えましたが、順調な活動ができましたことについて感謝を申し上げます。

今春も、夢と希望に満ち溢れた新入生の皆様の入学について、心からお慶び申し上げ、入学後の学生生活に係る支援の一端を担えさせていただければと思っております。

仙台市内

本後援会は、学生への支援・助成活動［入学記念祝賀会開催、新入生オリエンテーション及びオープンキャンパスへの助成、学生用図書の整備・充実、卒業謝恩会への助成、後援会会報の発行等々］などに積極的に取組み、その活動の様子を年2回発行の後援会会報により会員（保護者）の皆様方にお知らせしております。

また、学生、保護者そして本学部教職員との交流にも努めておりますので、御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、後援会の更なる発展と充実のために、会員の皆様からの御意見をお待ちしております。

御寄稿は、郵便又は電子メールでお願い申し上げます。

最後になりましたが、後援会会報No.13でお知らせ致しました生協の食堂及び購買店は、4月6日から通常営業となりましたことをお知らせいたします。

TOHOKU UNIVERSITY

東北大学医学部後援会事務室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
TEL : 022-717-7870　E-mail : med-koen@med.tohoku.ac.jp
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/